

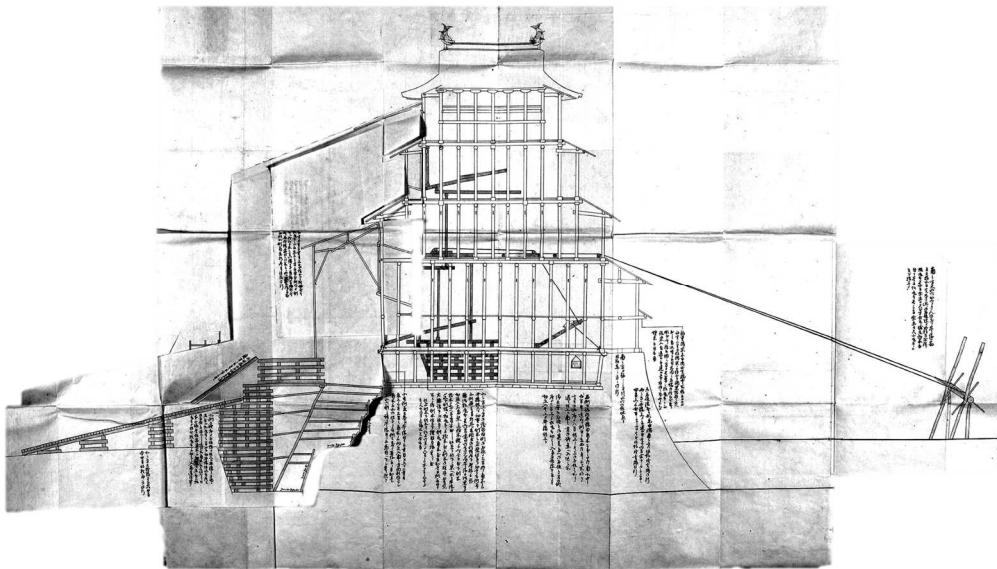
名古屋城検定 過去問題 上級

Q1. 家康は、義直の清須入城を機に清須城の大修理を行う計画を立てました。しかし、ある家臣の意見具申により、名古屋（那古野）の地に新しい城を築くことにしました。

(1) ある家臣とは、だれでしょう。その姓名を書きましょう。

(2) 名古屋（那古野）の地に、築城することを決めた理由を書きましょう。

Q2. 名古屋城の天守は、完成して半世紀余りが過ぎた寛文9（1669）年に屋根や瓦、壁の漆喰などの手入れが行われました。その後、何度も修理がなされましたが、やがて石垣が沈み、天守が西北に傾き始めたため、宝暦2（1752）年から宝暦5（1755）年にかけて、石垣を積み直す大修理が行われました。次の図は、その修理方法を表したものです。



「御天守御修復仕様平之方ヨリ見渡之図」

（名古屋城総合事務所蔵）

(1) 宝暦の大修理を行った尾張徳川家の当主はだれでしょう。

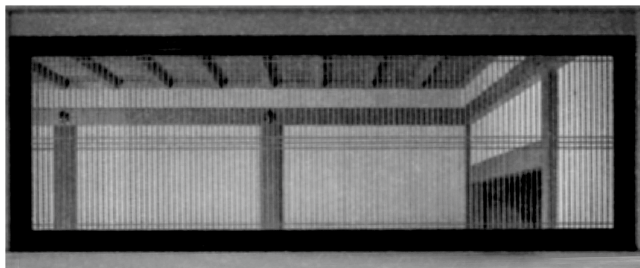
(2) 石垣を積み直すために、傾いた天守をどうしたのでしょうか。図を見て簡潔に答えましょう。

Q3. 本丸御殿では、部屋や廊下、付書院等で様々な美しい欄間が見られます。それは、採光や換気のためだけでなく、部屋の装飾のためでもありました。

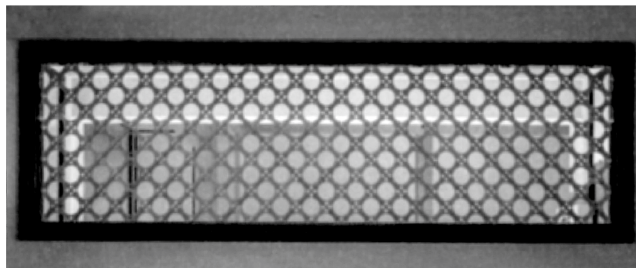
次の欄間のそれぞれの名称の正しい組み合わせはどれでしょう。

また、表書院の付書院に使用されている欄間はどれでしょう。

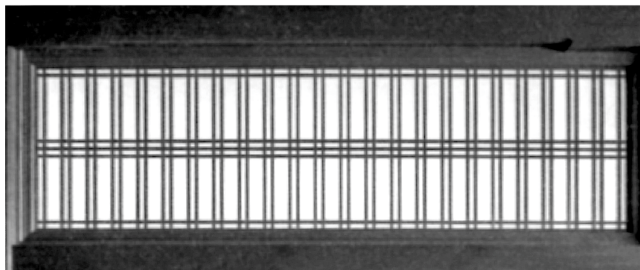
①



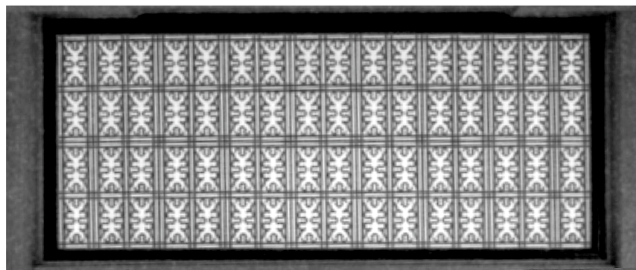
②



③



④

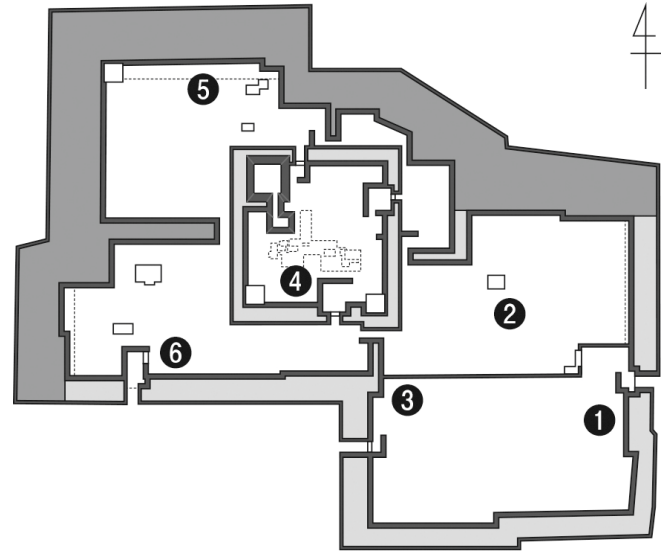


- | | | | |
|------------|-----------|-------|-----------|
| (A) -① 花欄間 | ② 鞘欄間 | ③ 箴欄間 | ④ 彫刻欄間 |
| (B) -① 鞘欄間 | ② 花欄間 | ③ 箴欄間 | ④ 花狭間格子欄間 |
| (C) -① 箴欄間 | ② 花欄間 | ③ 鞘欄間 | ④ 花狭間格子欄間 |
| (D) -① 箴欄間 | ② 花欄間 | ③ 鞘欄間 | ④ 彫刻欄間 |
| (E) -① 箴欄間 | ② 花狭間格子欄間 | ③ 鞘欄間 | ④ 花欄間 |

Q4. 廃藩置県後、名古屋城本丸に名古屋鎮台の司令部が置かれ、陸軍の重要拠点となりました。明治20年には、司令部が本丸の外に移転し、明治21年、名古屋鎮台が「第三師団」と改称されました。次の写真は、現在の名古屋城内に残る「歩兵第六聯隊之跡」の碑です。

この碑が建てられている場所を図中の番号で答えましょう。

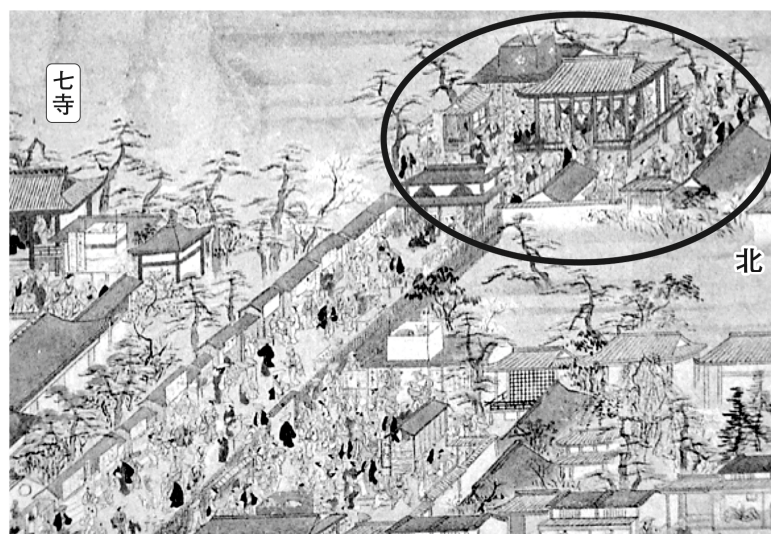
また、歩兵第六聯隊が所属した「第三師団」の司令部は、名古屋城のどの曲輪に置かれていたでしょう。



名古屋城見取図

Q5. 次の絵は、宗春が尾張徳川家7代当主であったころの名古屋城下のにぎわいを描いた絵巻の一部です。寺の参道には多くの人々が行き交い、見世物や講談、芝居などの看板が数多く立ち並んでいます。社寺の境内には芝居小屋がかけられ、広小路から南の「南寺町」一帯は活気にあふれる盛り場となっていました。

- (1) この絵巻は、宗春の治世（享保～元文年間）にちなんで、何と呼ばれているでしょう。
- (2) 実線で囲まれたところには、現在も多くの参詣人が訪れる大寺院が描かれています。その寺院名を書きましょう。



(名古屋城振興協会蔵)